

保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

令和5年11月17日（金）

苫小牧市法人保育園協議会

令和5年11月17日

苫小牧市長 岩倉 博文 様

苫小牧市法人保育園協議会
会長 遠藤 明 代

保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

令和5年5月からコロナが5類相当の取り扱いになりましたが、今なお、各園では、保護者、園児また、職員にも感染者が出ている状況であり、感染拡大を防ぐための感染予防策は、以前と変わらずに実施している状況です。

長く続いたコロナ禍で、保育園が果たした役割は大きく、時には、園児だけでなく、コロナに感染して職員が不足した時も、保育関係施設は開所し続ける努力を継続してきましたので、就労される保護者の方からは、コロナ禍でも仕事を続けられたと感謝や激励のことばをたくさん頂きました。

苫小牧市法人保育園協議会は、保育所として児童福祉法第24条1項に基づき、苫小牧市と委託契約を結んでいる保育事業者で組織されています。

法人保育園協議会の各園は、苫小牧市の待機児童解消のために多くのお子さんを超過で受け入れの努力をしてまいりましたが、数年前から徐々に4月の0歳児の入所数の減少傾向が顕著になり、特に今年度は、各保育園が軒並み定数に満たない異常事態となりました。

苫小牧市内のみならず、全国的な低年齢児童減少問題は今後も続き、保育園運営そのものを揺るがす大きな問題となってきています。

保育所として委託契約を受けて事業を実施している法人保育園が、これから先も子どもたちが、安心して生活できる受託先として、安定的に継続した運営ができるように、本会として、5項目にわたり要望致しますので、苫小牧市のご理解と積極的運営支援をお願い申し上げる次第です。

【要望事項】

1. 低年齢児の定数割れ等による運営費減収の解消策等についての要望

ここ3年ほど前から、各園の0歳児から1歳児の定員に対する充足率が下がってきている状況があり、全国的にも同じような問題が起きています。

低年齢児は公定価格単価も高いため、不足数は直ぐに運営難に直決する大きな問題です。

委託契約を結んでいる保育園が、今後も保育園運営の安定化を図ることができるように下記の項目を市に実施して頂きたい、要望いたします。

- ① 苫小牧市の保育園児申し込開始を認定こども園と同時期に11月から開始して頂きたい。(資料添付)

申し込み時期が12月締め切りで第1次調整が1月中旬となり、各園は園児数に合わせた保育士確保数が見込めず、職員調整が毎年困難であるため、園内案内は、認定こども園と同時期に苫小牧市役所ロビーで、案内を実施し申し込み開始時期も早めて頂きたい。

苫小牧市役所窓口受付での入所決定について、保育認定を実施しているこども園と各法人保育所の入所数バランスを考慮して頂き均衡を図って頂きたい。

- ② 低年齢の定数が減少している園に対しては、低年齢児の途中入園に対応するための待機保育士の人件費を予算化して頂きたい。

※目安として四半期1期分の基本額程度(資料添)

- ③ 標準時間と短時間の公定価格に差があるため、この差額も公費で補填をして、頂き、施設の運営安定を図って頂きたい。(資料添付)

2. 障がい児保育実施園での人的加配の補助金増額について

年々増加傾向にある発達支援の必要なお子さんは、早朝保育から遅番保育(延長保育)の長時間に対応するため、各園では、発達支援の必要なお子さんの保護者の就労状況により、8時間から11時間の保育を実施している園が多くあります。

発達支援のお子さんは、ひとりひとりの特性が異なるため場合によっては、保育士マンツーマンで人的配置をしていることも多く、各園では、時間外等短時間対応の保育士を雇用するなど、安心安全を確保しながら保育を実施しているため各園の大きな人件費負担となっています。

今後も発達支援を充実継続していくためにも、障がい児保育加算補助金の増額について実現して頂くよう要望いたします。

3. 5歳児健診の実現化に向けての要望

本会が、平成22年度から14年間にわたり要望してまいりました5歳児健診の必要性については、「4歳児から5歳児に脳の前頭前野が大きく発達し、運動（協調運動・行動抑制）情緒、言語、認知、概念など3歳児健診では見極められなかった分野について分析できる年齢となるため、その年齢に健診を受ける効果が挙げられている」という論文が脳科学者からも発表されている見解をお伝えしてきたところでしたが、先日、5歳児健診について、政府の検討事項として公費負担で実施できるように、経済対策として盛り込むという報道がありました。

保護者に安心して生活支援、育児相談や小学校入学までの教育相談を「支援パッケージ」として位置付けている自治体もあるそうですので、小学校に入学してからの困難回避や自己コントロール力の調整が功を奏し、入学後の学校不適合による不登校問題を減少させていく手立てとして、苫小牧市においても、予算の問題等を充分論議して頂き、「福祉都市宣言」を標榜する市として、速やかに「5歳児健診」の実施体制の計画を国の動向と並行して、積極的に検討して頂きたいと思います。

4. エアコン設置の補助金について

今年度は、苫小牧市も真夏日が多く暑さで室内にいても熱中症になるのではと思うような、猛暑に見舞われました。

各園ではエアコンを設置している施設は少なく、今後も年々暑くなる傾向にあるため、夏場の体温調節が難しい乳幼児の健康を守るためにも、苫小牧市でも小中学校にエアコン設置の予算化を予定されているとのことですので、保育施設にも予算化を実施して頂きたいと思います。

5. 予防接種補助金について

新型コロナウイルス感染症の際には、苫小牧市には速やかにワクチン接種の対応を取って頂き、感謝申し上げる次第です。

現在、インフルエンザ予防接種は希望する職員に接種費用を施設負担（全額負担並びに一部負担）で実施している園が多く、子どもたちにウイルスを持ち込まない安心できる施設環境を整えるためにも、保育関係職員の事前接種が必要になってきました。従いまして、予防接種費用の一部公費負担の補助をお願いいたします。

国に対しての要請をお願いしたい事項

令和5年11月17日（金）

苫小牧市法人保育園協議会

(はじめに)

新制度が導入されてから、様々な運営費算定が変化したことは、保育運営をする各施設にとっては、標準時間を11時間保育と短時間を8時間と2分されました。この3時間の違い対して、保護者は数百円の違いですが、事業者は約5080円の誤差があります。また、この数年の新制度導入により、認定こども園の低年齢児受け入れ園が多くなりつつありますが、従来から認可保育園として運営してきた保育所型保育園との違いは、単純に制度だけでなく、その他の加算給付額の差が大変多いことに驚きました。

保育所は開所時間が長く、公的なお休みは祝祭日だけで、法的に夏季休暇を位置付けて実施している園も多くて3日から5日となっています。

保育士たちは、園児の個別記録及び発達支援児童記録の記載、見守り家庭の支援などの対応等様々な仕事量に疲労困憊し、結婚や介護を機に、保育士を続けられなくなっている人が多くなり、全国的に保育士不足が起こっている状態が続いています。

乳幼児期の発達について専門教育を受けた保育士が、これからも保育の質を高めながら、安心して働き続けることができ、保育士自身が気概を持って仕事を継続していくことができるように、国に対して苦小牧市として下記の3点について速やかに要請をして頂きたいと強く願います。

(要請事項)

- ① 幼稚園職員加配配置基準と同様に職員加配を保育所にも適用して下さい。

(資料添付)

- ② 土曜保育の特別事業化を進めて下さい。

土曜保育は、平成5年の厚生省審議会提言の「今後の保育の在り方について」で週休2日制に定着が進行した段階で、土曜保育は特別事業として位置づけられることも検討の余地があるとした見解が示されていますので、少しでも実現化して頂きたい。

- ③ 主任保育士の増員（フリー化）、調理員の増員（アレルギー食対応増加）、栄養士、看護師、事務職員の常駐化を進めて下さい。

保育士の不足による不適切な保育も報道される中、保育士が不足して年休や病気でのお休みが取りにくいなど、保育園の場合はフリーになっている主任保育士が不在という保育園も多く、一名の主任保育士（フリー）でも足りない状況です。

調理員もアレルギー食が多くなり、フルタイム職員が2名の体制と半日の補助が必要な現状です。

乳幼児を保育する場合は、子どもたちの安心安全な保育を実施するためには、栄養士及び看護師のフルタイム常駐化は必要です。

事務職員も処遇費の補助金取り扱い、副食費や延長保育事業の集金等でフルタイム常駐化が必要です。